

**令和3年度第2回日本スポーツ少年団常任委員会  
議事録**

日時：令和3年5月28日（金） 15時00分～16時30分

場所：新型コロナウイルスの影響により Web 会議システムを用いたリモート開催

※事務局は JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 12階大会議室「スタジアム」から参加

出席者：泉本部長、大西副本部長

宇佐美、福原、田村、横井、三井、平山、本川、秋本、見城、伊藤、富田、米谷、望月、網代、小山、工藤、河内の各常任委員 計19名

<委任>萩原副本部長、原常任委員 計2名

<事務局>青田地域スポーツ推進部長、浅井ブランド戦略部長、加藤課長、金谷担当課長、他少年団課員8名

構成員の2分の1以上の出席【総数21名のうち出席21名(委任含む)】により会議成立。

(「日本スポーツ少年団設置規程」第18条第3項)

日本スポーツ少年団設置規程第18条第2項により、泉本部長を議長として、議事に入った。

<議案>

1. 令和3年度第2回日本スポーツ少年団委員総会の開催について

令和3年5月29日（土）開催の第2回委員総会は、資料の次第案に基づき5点の議案、7点の報告事項に基づき取り進めることを諮り、これを承認。

2. 令和3年度日本スポーツ少年団補正予算について

国庫補助金による令和3年度子供の運動遊び定着のための官民連携推進事業（以下「官民連携推進事業」という。）を実施するため、補正予算を編成することについて諮り、これを承認。

補正予算額は、収入支出ともに現行予算額に対して299,110,562円増の820,458,562円となる。

なお、本件（補正予算の編成）については、明日5月29日開催の令和3年度第2回委員総会に諮ることを説明。

3. 令和2年度日本スポーツ少年団活動報告及び決算について

令和2年度の日本スポーツ少年団における活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの事業が中止を余儀なくされ、各種収入・支出にも大きく変動を来したことを説明し、活動報告および決算を諮り、いずれも承認。

なお、令和2年度の決算は、明日5月29日開催の令和3年度第2回委員総会、6月3日開催の日本スポーツ協会理事会および6月18日開催の定時評議員会において、日本スポーツ協会全体の決算として最終的な承認を得る予定であることを説明。

<質問・意見等>

伊藤委員：登録認定関係として、「団旗等作成・送料等」とのみ資料に記載されているが、(学識経験)登録システム改修に大きく費用がかかっているという事実と合致しない。記載内容を事実に合わせて方が良い。

事務局：ご指摘の通り修正する。明日開催の委員総会では口頭で訂正させていただく。

4. 令和4年度日本スポーツ少年団活動計画及び要望予算の編成について

令和4年度の活動計画および要望予算の編成について、各専門部会での検討を踏まえとりま

とめた活動計画案に基づき、今後予算編成作業に入ることを諮り、これを承認。また、当該作業の取進めに際して、各補助元、助成元等との関係から、日本スポーツ協会全体で、スポーツ少年団に関係する予算や事業規模の調整が必要になった場合の対応および新型コロナウイルス感染拡大への対応や「スポーツ少年団緊急対策プロジェクト」に関連して事業内容の変更や新たな取り組みを行う必要が生じる場合には、それら対応を本部長に一任とすることをあわせて承認。

なお、各種調整や対応を行った場合はその結果を反映させた活動計画案と、その活動計画案に基づく予算を令和4年2月開催予定のブロック会議にて説明し、最終的には令和4年2月下旬開催予定の常任委員会および委員総会に諮ることを説明。

#### <質問・意見等>

平山委員：令和3年度実施の官民連携推進事業と令和4年度の活動計画に記載されている（奈良県）アクティブ・チャイルド・プログラム（以下「JSP0-ACP」という。）は別物になるのか。ガイドブックやリーフレットの内容はそれぞれ違うのか。また、ガイドブック等作成予算はどちらから支出されるのか。

事務局：事業は別物である。活動計画に記載のJSP0-ACPは例年行っている事業となっている。

富田委員：国庫補助金を受けて実施する官民連携推進事業では、当該事業の予算をもって（学識経験）従前のガイドブック等の改定作業を行うこととしている。改定後のガイドブック等をJSP0-ACPの各種講習会で活用する予定である。

#### 5. 令和5年度全国スポーツ少年団競技別交流大会の開催地について

令和3年2月に開催した令和2年度第5回常任委員会、第3回委員総会の時点で調整中となっていた標記大会の開催地について、調整の結果、軟式野球交流大会は関東ブロックの千葉県、バレーボール交流大会は東北ブロックの宮城県をそれぞれ開催地とすることを諮り、これを承認。

剣道交流大会については、継続して調整することとし、開催地選定並びに決定に関する取り進めを本部長に一任とすることをあわせて承認。

#### 6. スポーツ少年団登録者処分基準の改定について

スポーツ少年団登録者の処分に関する課題に対応するため、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格（以下「JSP0 資格」という。）を保有する登録者の処分の項目を新たに追加することを説明。

日本スポーツ少年団にて取り扱う事案のうち、違反行為を行った疑いがある少年団登録者がJSP0 資格保有者である場合に、JSP0 資格保有者として科された処分内容に応じて少年団登録者としての処分を科することができること、また、JSP0 資格にあわせて再教育プログラムの規定と処分基準別表の処分内容（期間）を改定すること等について諮り、これを承認。

なお、本基準の改定施行日は、改定内容を市区町村・都道府県スポーツ少年団へ提示してから一定期間が経過した後とし、具体的な改定施行日の調整は全体的な文言の調整を含め本部長に一任とすることをあわせて承認。

#### <質問・意見等>

望月委員：2012年に発生した暴力・体罰問題に対処するため、競技団体等がそれぞれに独（学識経験）自で処分規定を設けてきたため、団体により取り扱いが異なるなど調整が困難になっている。まずは少なくともJSP0 公認スポーツ指導者の処分基準と少年団

の処分基準に差異が起こらないようにしたことが今回の改定の目的と考える。

泉本部長：今回対応する部分以外にも課題があることは認識している。引き続き対応を進めていきたい。

7. 令和3年度日本スポーツ少年団顕彰について

日本スポーツ少年団顕彰要綱および同施行基準に基づき推薦があった30都府県61市区町村のスポーツ少年団および45都道府県138名の登録者を表彰することについて諮り、これを承認。

なお、退任者に対する感謝状の贈呈は、従来同様、各都道府県スポーツ少年団本部長にその手続きを委任し、年度末の一括報告をもって取り進めることについてあわせて承認。

8. 令和3年度社会教育功労者表彰の推薦について

文部科学大臣が表彰する社会教育功労者の候補者推薦については、同省の推薦基準および日本スポーツ少年団の推薦基準に基づき今後候補者選定を行い、基準に沿った候補者がいる場合は、該当者を文部科学省に推薦することとし、その手続きについて本部長に一任とすることを諮り、これを承認。

<報告事項>

1. 令和3年度第1回日本スポーツ少年団常任委員会の議事録について

議長から資料のとおり議事録を作成したことを報告。

2. 第19回（令和3年度）全国スポーツ少年団バレーボール交流大会について

島根県で開催する第19回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会について、去る3月10日に実行委員会設立総会および第1回実行委員会を開催し実施要項が承認されたことを報告。なお、令和2年度大会（※新型コロナウイルスの影響により開催中止）から実施形態が一部変更され、男女それぞれの優勝チーム数に変更となったことに伴い、開催要項における表彰に関する内容が調整中となっているため、当該部分の調整を終えた後に、開催要項を各都道府県に発信することをあわせて報告。

3. 第48回（令和3年度）日独スポーツ少年団同時交流（派遣：オンライン交流）日本団の団員決定等について

オンラインにて実施する第48回日独スポーツ少年団同時交流（派遣）の参加団員については、20名を決定し、来る6月26日にオンラインにて事前研修会を開催することを報告。

なお、定員76名に対して欠員数が顕著となったため、既に追加募集を行ったところであるが、再度追加募集を実施することを報告。

<質問・意見等>

富田委員：資料記載のグループ編成について、活動開発部会で調整して一部入れ替えとし（学識経験）ていたが反映されているか。

事務局：資料に反映できていなかった。後ほど訂正する。

4. 2020年日独スポーツ少年団ユースキャンプ（2021年実施）について

2020年日独スポーツ少年団ユースキャンプ（2021年実施）の準備状況について、ドイツ団との交流形態をオンライン交流に変更したこと、また、日本団の日本国内での参加形態を東京に集合して参加または自宅からのオンライン参加のいずれかを選択するハイブリット形態と

することを報告。

なお、日本団の参加人数は、団長を含めた指導者10名、団員24名、ドイツ団の参加人数は指導者8名、団員43名となっており、実施期間中は日独混成の8グループを編成しグループ活動等を実施すること、また、実施期間は当初予定から日程を短縮した8月2日（月）～5日（木）の4日間とし、テーマに基づくワークショップやディスカッション、スポーツアクティビティ、文化プログラム、ファンプロジェクト等のプログラムを予定していることを報告。

#### 5. スポーツ少年団登録者処分基準に基づく処分について

スポーツ少年団登録者処分基準に基づき、都道府県スポーツ少年団が処分を決定した1件の事案について以下のとおり報告。

事案：宮城県のバスケットボール指導者が、自身が代表を務める単位スポーツ少年団において、同団に所属する指導者（コーチ）を、団員の前で一方的に退団させた。

処分内容：嚴重注意

#### 6. 専門部会及びプロジェクト等の報告について

各部会長、事務局から以下のとおり報告。

##### <指導育成部会>

###### ・市区町村・都道府県段階における指導者登録について

「指導者」の登録について、単位団だけでなく市区町村・都道府県段階でも登録可能とすることを検討してほしいとの委員総会における委員からの要望について協議。実現のためには規程の改定や登録システムの大規模改修が必要となる可能性があるが、登録可能とする方向で検討を進めることとする。

###### ・令和3年度生涯スポーツ功労者表彰 推薦候補者について

スポーツ庁が実施している当該顕彰事業の推薦候補者として、スポーツ少年団から5県計10名の指導者を候補者として、スポーツ庁に推薦することとした。

##### <広報普及部会>

###### ・スポーツ少年団各種事業等の認知度調査項目案について

単位スポーツ少年団に対して実施を予定している「スポーツ少年団各種事業等の認知度調査」の調査項目を協議。単位スポーツ少年団の登録期間を踏まえ、7月～8月頃を目途に調査を実施する予定とした。

###### ・スポーツ少年団紹介動画（パイロット版）の作成について

動画コンテンツの必要性について協議。スポーツ少年団紹介動画の試作版の作成に向けて取り進めることとした。

##### <活動開発部会>

###### ・第43回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会（沖縄県）および第59回全国スポーツ少年大会（リーダーズアクション2021）について

開催地の実行委員会と開催に向け準備状況確認とともに今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえた実施判断について協議。

###### ・2021年日独スポーツ少年団指導者交流（派遣・受入）について

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえた実施判断について、引き続きドイツ側と協議していくことを確認。

###### ・スポーツ少年団指導者の救急対応に関する経験・認識の実態調査について

単位団の指導者を対象に標記調査について、調査内容を協議。単位スポーツ少年団の登録期間の終了後となる7月末以降に調査を実施する予定とした。

<日本スポーツ少年団リーダー制度改定ワーキンググループ>

前回までのワーキンググループで作成した「目指すべきリーダー像、必要なスキル」を踏まえて、シニア・リーダースクール、ジュニア・リーダースクールの各スクーリングの実施構成案や日程案等について協議。

7. スポーツ少年団緊急対策プロジェクトについて

第2回プロジェクト会議を開催したこと、都道府県スポーツ少年団本部長へのヒアリングを6月中に実施することを報告。

<質問・意見等>

望月委員：かねてから少年団のレベルで全国大会が必要かという議論があり、結論として(学識経験)て、現在の全国競技別交流大会におさまったと理解している。

学校における部活動の見直しを契機に、様々なレベルでの大会の在り方について検討対象となっているが、小中学校レベルにおける全国大会が、プレイヤーの成長という視点から意味があるのか、例示すると、ジュニアスポーツとしてその年代に必要な指導をすることがなく、早熟のプレイヤーに頼った勝利を目指すという誤った傾向の増長などの弊害があるのではないかと等が挙げられる。全国大会の意義と将来について検討するワーキンググループを立ち上げる等、対応を希望する。

富田委員：全国競技別交流大会を所管する活動開発部会では、大会をどのように実施するかという視点での協議は行っているが、大会自体の存廃を協議するというのはなかなか難しく、緊急対策プロジェクトのような大きな位置づけの場で議論ができればと考えている。

8. 「JAPAN GAMES」ブランドの実現に向けて(案)

日本スポーツ協会(以下「JSP0」という。)ブランド戦略委員会にて検討の上、JSP0 総合企画委員会にて了承された本取組みについて、浅井ブランド戦略部長より以下のとおり説明。

ブランド戦略委員会では、スポーツがあらゆる人々に一切の差別、格差なく享受され、誰もが望む社会の実現を目指すJSP0が果たすべき役割、JSP0の立ち位置を広く理解していただくため、JSP0のブランド向上を目指し活動している。

JSP0のブランド向上を図るにあたり、「国民スポーツ大会」「スポーツ少年団全国大会」「日本スポーツマスターズ」の各大会が連携、協働しその価値を相互に共有することで、新たな在り方を創造するとともに、アミューズメント性も加え、多くの方々により親しみ、楽しんでいただけるムーブメントとして「JAPAN GAMES」を提案する。

「JAPAN GAMES」は、我が国のスポーツ参画人口を増加させ、心身の健康を増進させるとともに、スポーツで社会を支える仕組みを構築することを目的とする。

その背景として、スポーツ大会に対して「人づくり(心と体)」「人の結びつきや絆」「生きがいと心身ともに健康」を求めている人が潜在的に存在していることがある。

こうした背景を基に、各大会を包含する多様性、継続性、地域性といった価値を共有することが「JAPAN GAMES」が目指す立ち位置である。

この取組みについて、今後スポーツ少年団でも検討され、了承されれば、国民体育大会委員会、日本スポーツマスターズ委員会、日本スポーツ少年団の3委員会におけるブランド統合に

向けた協議を開始したい。

<質問・意見等>

泉本部長： JSP0 の認知度、ブランドの向上を組織全体で取り進めるものである。ブランド戦略委員会、各委員会とも連携していきたい。

9. ブロック報告について  
特になし。

以上、16時30分閉会。